

防

災

を考える

近年、地震や大雨といった災害が多く発生しています。今年発生した能登半島地震は最大震度7を観測し、甚大な被害をもたらしました。いつ起こるか分からない災害に備え、今一度防災について考えましょう。【申】【問】 消防防災課（本庁4階） ☎24-2132

東日本大震災時の市内

01

災害発生前にできること

非常品の準備など、普段からの備えが大切です

災害への体制を備える

防災行政無線 戸別受信機の貸与

防災行政無線が聞こえにくい場合、放送を屋内で受信できる戸別受信機を無償で貸与します。



台数 1世帯又は1施設につき1台

対象 ※いずれかに該当する世帯及び施設

- ・視覚又は聴覚障がい、身体障害者手帳の交付を受けている人
- ・浸水想定区域内及び土砂災害警戒区域内に所在する要配慮者利用施設（入所施設に限る）
- ・浸水想定区域内及び土砂災害警戒区域内に居住する75歳以上の人
- ・防災行政無線の屋外子局からの放送を聞き取りにくいと認められる地域に居住する75歳以上の人

防災士育成補助金

防災士の資格取得に要する費用を補助します。

補助限度額 1人あたり **6万4,000円**



詳しくはこちら

自主防災組織活動育成事業費補助金

災害発生時に重要な役割を担う、自治会などの自主防災組織の活動に対し、補助金を支給します。

自主防災組織結成時 （1組織1回限り）

防災用資機材などの購入費として **20万円**

防災訓練の実施など

組織加入数 50世帯未満 **2万円**

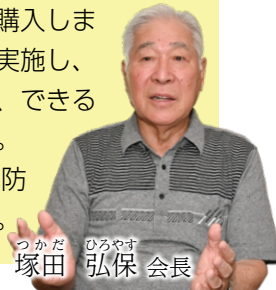
50世帯以上 **3万円**



1人も置き去りにしない地域へ

新花町自主防災会では、補助金を使い、危険箇所に設置するコーンバーを購入しました。当会は毎年防災訓練を実施し、災害時は誰が誰を救助するか、できるだけ決める努力をしています。「共助」の意識のもと、地域の防災力向上が大切だと思います。

新花町自主防災会 塚田 ひろやす 会長



7/6 (土)

9:00~
11:00

下館西中学校区防災訓練

実際に避難所を開設し、避難経路の確認や、消防署による水消火器の使用体験、協力企業による災害物品の展示などを行います。

場所 下館西中学校体育館

対象 どなたでも（消防防災課に要申込）

訓練内容

避難所への住民避難

防災無線やLINEでの避難発令後、危険箇所を避け避難する

避難所開設・運営

受付の流れや雰囲気を確認し、災害時のスムーズな避難につなげる

防災講習会

水戸地方気象台による防災講習会の実施

など



非常持出品を確認

家族構成や、季節に応じて必要なものを準備しましょう。

- | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|
| ☐ 飲料水 | ☐ 食料品 | ☐ 貴重品（通帳・印鑑など） | ☐ 衣類 |
| ☐ タオル | ☐ マスク | ☐ ヘルメット・防災ずきん | ☐ 下着 |
| ☐ 携帯電話用充電器 | ☐ ウェットティッシュ | ☐ 毛布 | |
| ☐ 使い捨てカイロ | ☐ 懐中電灯 | ☐ 携帯ラジオ | ☐ 軍手 |
| ☐ 救急用品（薬など） | ☐ 洗面用具 | ☐ 予備電池 | |

インフラの復旧や救援体制が整うまで3日程度かかるといわれています。定期的に見直し、十分な量を用意しましょう。



02 災害が発生したら

正しい情報のもと、身の安全を第一に考え、落ち着いて行動しましょう

避難所情報を集める

大きな地震や、大雨などの自然災害が発生又は予測されるときは、避難所を開設します。防災行政無線や市公式 LINE を確認してください。



防災行政無線

緊急情報を速やかに届けられるよう、防災行政無線を整備しています。放送が聞こえにくい場合は、再応答サービスをご利用ください。

防災無線再応答サービス（通話無料）

☎0120-0296-99



筑西市公式 LINE

避難所の情報や防災無線の過去の放送のほか、各種ハザードマップなどを確認できます。



LINE をひらき、防災情報をタップすると防災ポータルページにとびます。

要配慮避難者宿泊施設利用助成金

避難発令がされた際に、特に配慮を要する避難者が市内の宿泊施設を避難所として利用する際の経費を助成します。



助成限度額

1人につき1泊あたり **3,000円**

詳しくはこちら



個人で非常持出品を準備点検するなどの「物」の準備はもちろんですが、今回紹介している各種補助金、訓練などの制度を活用して「心」の準備を整え、地域・自治会の「災害を生き抜く力」を向上させましょう。

震災などの発災当初に、国や市といった公的な組織が現地活動を開始するには、タイムラグが生じます。そのため、個人や自治会の助け合いでタイムラグを埋めることが、生き残りを左右することになります。

震災などの発災当初に、国や市といった公的な組織が現地活動を開始するには、タイムラグが生じます。そのため、個人や自治会の助け合いでタイムラグを埋めることが、生き残りを左右することになります。

日頃の準備が
生き残りを左右する

今年一月一日に発生した能登半島地震の記憶も新しいと思います

が、災害は場所や時期を選ばず突然やってきます。これは、どうにもならない事実です。突然の災害被害を軽減するためには、日頃から準備を怠らず、落ち着いて行動することが重要です。